



## 2023年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年8月12日

上場会社名 株式会社 安楽亭

上場取引所 東

コード番号 7562 URL <http://www.anrakutei.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 柳 先

問合せ先責任者 (役職名) 総務人事部 課長

(氏名) 町田 英之

TEL 048-859-0555

四半期報告書提出予定日 2022年8月15日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第1四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	6,923	31.7	253		232	15.2	45	53.4
2022年3月期第1四半期	5,257	0.2	848		201		98	

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 52百万円 ( 42.4%) 2022年3月期第1四半期 90百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	21.48	
2022年3月期第1四半期	46.09	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第1四半期	21,385	4,923	23.0
2022年3月期	21,664	4,871	22.5

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 4,923百万円 2022年3月期 4,871百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		0.00		0.00	0.00
2023年3月期					
2023年3月期(予想)		0.00		0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	15,656	52.6	402		387		259		121.15
通期	30,937	31.8	674		638	26.8	411	17.6	192.25

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期1Q	2,139,434 株	2022年3月期	2,139,434 株
期末自己株式数	2023年3月期1Q	1,663 株	2022年3月期	1,617 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期1Q	2,137,801 株	2022年3月期1Q	2,137,928 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(会計方針の変更) .....	8
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症防止のための行動制限が緩和され、経済社会活動の正常化が期待された一方、世界的な物価上昇やウクライナ情勢等の地政学リスクによる不安定な情勢が続き、景気の先行きは不透明な状況で推移しました。

外食産業におきましては、まん延防止等重点措置の発令に伴う営業時間短縮等の制限は解除されたものの、消費者の感染再拡大への警戒感依然として強く、さらに物価上昇による生活防衛意識の高まりもあり、客足の回復には時間を要する見通しとなっております。併せて、原材料価格やエネルギーコスト、物流コストの高騰の影響を強く受け、厳しい経営環境が続いております。

このような環境のもと、当社グループは、経営理念である「食を通じて地域社会の豊かな生活文化の向上に貢献する」に基づき、お客様の基本ニーズである「安全・安心」に徹底してこだわった「自然肉100%」の商品提供を堅持するとともに、店内の衛生管理を強化・徹底し、お客様に安心してご来店いただける環境づくりに注力してまいりました。また、コロナ禍を経て変化した消費者の意識・行動を的確にとらえ、収益力を維持向上させていけるよう、新たなメニューやサービスの導入を進めたほか、DXやITを活用した生産性向上の試みも推進してまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高69億23百万円（対前年同期比31.7%増）、営業損失2億53百万円（前年同期は営業損失8億48百万円）、経常利益2億32百万円（対前年同期比15.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益45百万円（対前年同期比53.4%減）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### ① 安楽亭業態

安楽亭業態の当第1四半期連結累計期間末の店舗数は168店舗であります。内訳は直営118店舗、暖簾12店舗、FC38店舗であります。

販売促進及び商品開発につきましては、消費者の意識・行動の変化に適応した新商品の開発を進めるなか、「肉定量+サイドメニュー食べ放題」のプラン「ピタ放題」の販売を5月末に開始しました。ファミリーや女性客、シニア層などから好評をいただき、従来の食べ放題プランと異なるニーズに応えることができております。さらに、ディナー時間帯にお酒を存分に楽しんでいただけるプランとして、チューハイ、ハイボール、レモンサワーが600円（税別）にて飲み放題となる「ハイホーダイ」も開始しております。

その他、お客様に外食の楽しさを実感していただける施策として、「新生活応援！ハッピーディナーキャンペーン」「全力応援！運動会キャンペーン」「夏はすぐそこ！肉まつり」等、焼肉をお得に楽しんでいただけるプランを積極的に展開してまいりました。

以上の結果、安楽亭業態の当第1四半期連結累計期間の売上高は26億64百万円（対前年同期比30.1%増）となり、セグメント利益（営業利益）は12百万円（前年同期はセグメント損失2億37百万円）となりました。

#### ② 七輪房業態

七輪房業態の当第1四半期連結累計期間末の店舗数は28店舗であります。内訳は直営23店舗、暖簾2店舗、FC3店舗であります。

販売促進及び商品開発につきましては、食べ放題メニューのリニューアル等、七輪房の魅力を向上する施策に取り組んでまいりました。

以上の結果、七輪房業態の当第1四半期連結累計期間の売上高は4億71百万円（対前年同期比28.4%増）となり、セグメント損失（営業損失）は21百万円（前年同期はセグメント損失48百万円）となりました。

③ アークミール

アークミール業態の当第1四半期連結累計期間末の店舗数は直営140店舗であります。アークミール業態には、「ステーキのどん」、「しゃぶしゃぶどん亭」、「フォルクス(ステーキ)」、「donイタリアーノ(イタリアン)」を含んでおります。

販売促進及び商品開発につきましては、「ステーキのどん」、「しゃぶしゃぶどん亭」、「フォルクス」の主要各業態において、安楽亭業態等と同様、積極的に来店促進の施策を展開し、「学割キャンペーン 追い肉リブロインステーキ半額」(ステーキのどん)、「桜肉しゃぶしゃぶフェア」(どん亭)等の企画を実施しております。

また、4月21日に、フォルクス江坂店(大阪府吹田市)が、約1年間の建替え・改装工事を経て全面リニューアルオープンいたしました。より一層上質なレストラン体験を提供するモデル店舗として、サービスのグレードアップを図っております。

以上の結果、アークミール業態の当第1四半期連結累計期間の売上高は36億69百万円(対前年同期比31.7%増)となり、セグメント損失(営業損失)は1億25百万円(前年同期はセグメント損失4億10百万円)となりました。

④ その他業態

その他業態の当第1四半期連結累計期間末の店舗数は8店舗であります。内訳は直営5店舗、FC3店舗であります。なお、その他業態には、「えんらく(焼肉食べ放題)」、「からくに屋(焼肉)」、「花炎亭(焼肉)」、「上海菜館(中華)」、「アグリコ(イタリアン)」、「カフェビーンズ(喫茶)」、「安楽亭ベトナム(焼肉)」を含んでおります。

以上の結果、その他業態の当第1四半期連結累計期間の売上高は1億17百万円(対前年同期比104.1%増)となり、セグメント損失(営業損失)は3百万円(前年同期はセグメント損失23百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末に比べ2億79百万円減少し、213億85百万円となりました。これは、未収入金の減少、建設仮勘定の減少等が要因です。負債は、前連結会計年度末に比べ3億31百万円減少し、164億62百万円となりました。これは、未払法人税等の減少、長期借入金の減少等が要因です。純資産は、前連結会計年度末に比べ51百万円増加し、49億23百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等が要因です。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想につきましては、2022年5月14日に公表いたしました業績予想から変更しておりません。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき当社で判断したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想と異なる場合があります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,948,393	3,951,420
売掛金	890,003	782,782
商品及び製品	584,421	648,199
仕掛品	2,869	6,570
原材料及び貯蔵品	1,045,491	1,104,391
前払費用	371,265	399,261
未収消費税等	48,876	2,183
その他	281,946	121,144
貸倒引当金	△4,917	△4,917
流動資産合計	7,168,351	7,011,036
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,262,934	3,248,155
機械装置及び運搬具(純額)	78,554	73,733
工具、器具及び備品(純額)	441,525	465,989
土地	6,080,942	6,080,942
リース資産(純額)	124,221	118,164
建設仮勘定	132,790	5,009
有形固定資産合計	10,120,968	9,991,995
無形固定資産		
のれん	24,267	21,234
その他	503,657	516,389
無形固定資産合計	527,925	537,623
投資その他の資産		
投資有価証券	144,644	142,994
長期貸付金	8,475	7,933
長期前払費用	265,852	254,656
繰延税金資産	205,870	254,612
敷金及び保証金	3,218,505	3,180,904
その他	31,078	30,323
貸倒引当金	△26,735	△26,724
投資その他の資産合計	3,847,691	3,844,700
固定資産合計	14,496,584	14,374,319
資産合計	21,664,935	21,385,356

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	924,915	868,067
短期借入金	3,697,000	3,622,200
1年内返済予定の長期借入金	1,212,580	1,356,468
リース債務	57,864	53,744
割賦未払金	300,006	319,623
未払金	425,147	448,989
設備関係未払金	163,927	119,265
未払費用	865,363	921,851
未払法人税等	251,791	84,447
未払消費税等	43,890	179,639
賞与引当金	116,686	112,516
転貸損失引当金	9,539	6,215
資産除去債務	22,998	48,110
その他	371,335	402,184
流動負債合計	8,463,045	8,543,323
固定負債		
長期借入金	6,052,564	5,625,572
リース債務	151,232	147,307
長期割賦未払金	733,288	751,695
繰延税金負債	186,189	185,657
役員退職慰労引当金	129,342	132,599
退職給付に係る負債	432,798	434,287
資産除去債務	383,950	363,922
その他	261,385	277,982
固定負債合計	8,330,753	7,919,024
負債合計	16,793,799	16,462,348
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,182,385	3,182,385
資本剰余金	2,472,098	2,472,098
利益剰余金	△798,241	△752,313
自己株式	△9,065	△9,365
株主資本合計	4,847,177	4,892,804
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	12,642	11,524
為替換算調整勘定	6,294	13,997
退職給付に係る調整累計額	5,021	4,680
その他の包括利益累計額合計	23,958	30,203
純資産合計	4,871,135	4,923,007
負債純資産合計	21,664,935	21,385,356

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)
売上高	5,257,555	6,923,135
売上原価	2,096,091	2,612,921
売上総利益	3,161,463	4,310,213
販売費及び一般管理費	4,009,517	4,563,499
営業損失(△)	△848,054	△253,285
営業外収益		
受取利息	814	916
受取配当金	1,675	1,752
受取地代家賃	17,488	11,747
助成金収入	1,058,986	499,718
その他	6,822	7,206
営業外収益合計	1,085,786	521,341
営業外費用		
支払利息	27,637	32,889
賃貸収入原価	7,937	1,608
その他	387	1,021
営業外費用合計	35,962	35,519
経常利益	201,769	232,535
特別利益		
固定資産売却益	1,954	—
特別利益合計	1,954	—
特別損失		
固定資産除却損	3,745	0
減損損失	2,274	96,462
賃貸借契約解約損	6,103	76,508
特別損失合計	12,123	172,971
税金等調整前四半期純利益	191,601	59,563
法人税、住民税及び事業税	30,826	62,205
法人税等調整額	62,240	△48,569
法人税等合計	93,066	13,636
四半期純利益	98,534	45,927
親会社株主に帰属する四半期純利益	98,534	45,927

四半期連結包括利益計算書  
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)
四半期純利益	98,534	45,927
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△7,305	△1,117
為替換算調整勘定	△288	7,703
退職給付に係る調整額	△418	△341
その他の包括利益合計	△8,011	6,244
四半期包括利益	90,522	52,171
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	90,522	52,171

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる、四半期連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	アークミール	その他業態	計			
売上高								
顧客との契約から生じる収益	2,047,533	367,064	2,785,569	57,388	5,257,555	5,257,555	—	5,257,555
外部顧客への売上高	2,047,533	367,064	2,785,569	57,388	5,257,555	5,257,555	—	5,257,555
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	2,047,533	367,064	2,785,569	57,388	5,257,555	5,257,555	—	5,257,555
セグメント損失(△)	△237,754	△48,698	△410,436	△23,112	△720,002	△720,002	△128,051	△848,054

(注) 1. セグメント損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「七輪房業態」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間においては2,274千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

## II 当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	アークミール	その他業態	計			
売上高								
顧客との契約 から生じる収 益	2,664,835	471,213	3,669,942	117,143	6,923,135	6,923,135	—	6,923,135
外部顧客への 売上高	2,664,835	471,213	3,669,942	117,143	6,923,135	6,923,135	—	6,923,135
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	2,664,835	471,213	3,669,942	117,143	6,923,135	6,923,135	—	6,923,135
セグメント利益 又は損失(△)	12,912	△21,031	△125,319	△3,741	△137,179	△137,179	△116,106	△253,285

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「安楽亭業態」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間においては14,365千円であります。

「七輪房業態」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間においては24,820千円であります。

「アークミール」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間においては57,277千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。